

# 自律的移動支援プロジェクト・・・参考資料

すべての人が持てる力を発揮できる  
社会システムを目指して

平成16年3月

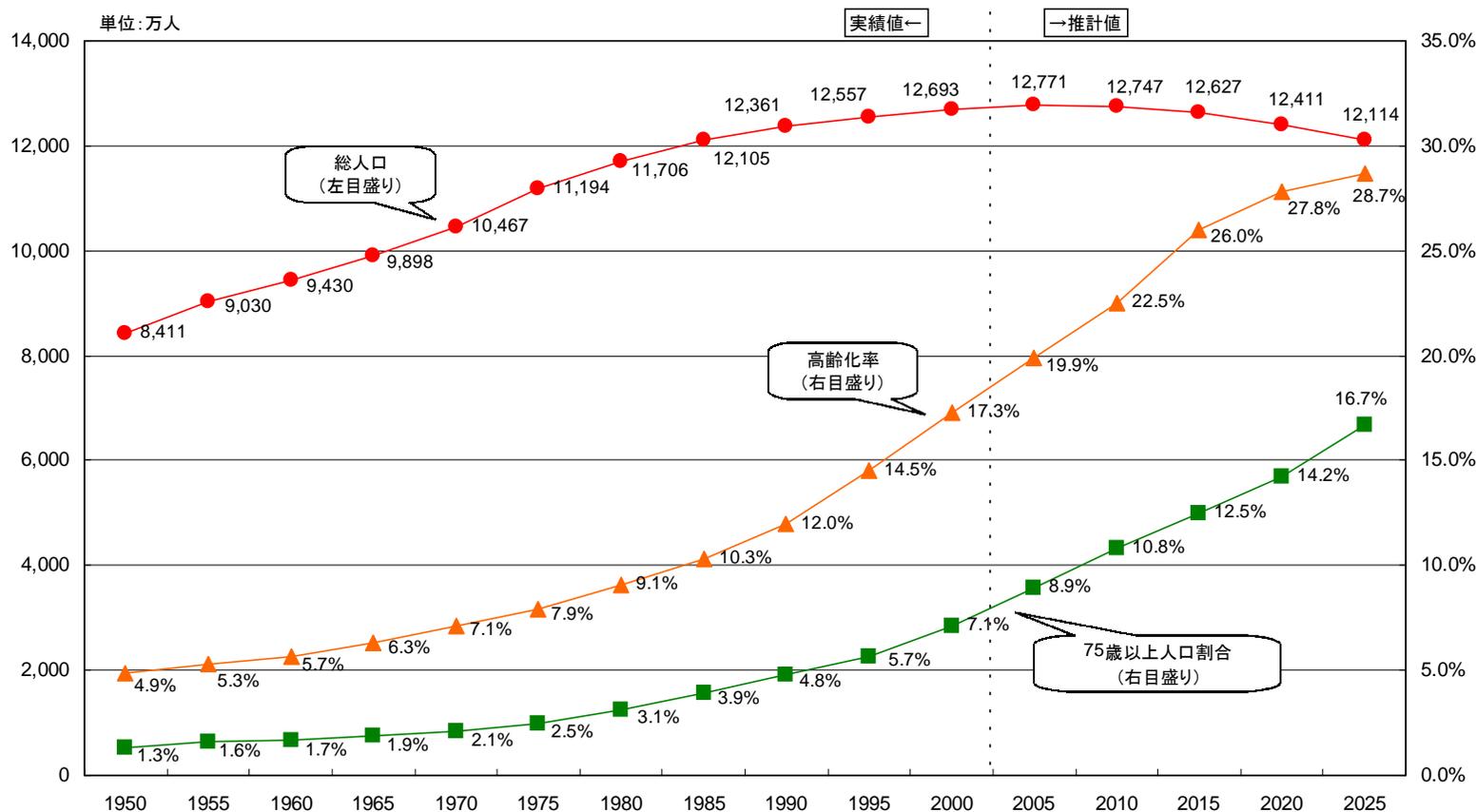
# 目次

- 1. 背景 .....P2
- 2. プロジェクトの目的 .....P7
- 3. 取り組みの内容 .....P13

# 1. 背景

## 少子高齢化と人口の減少

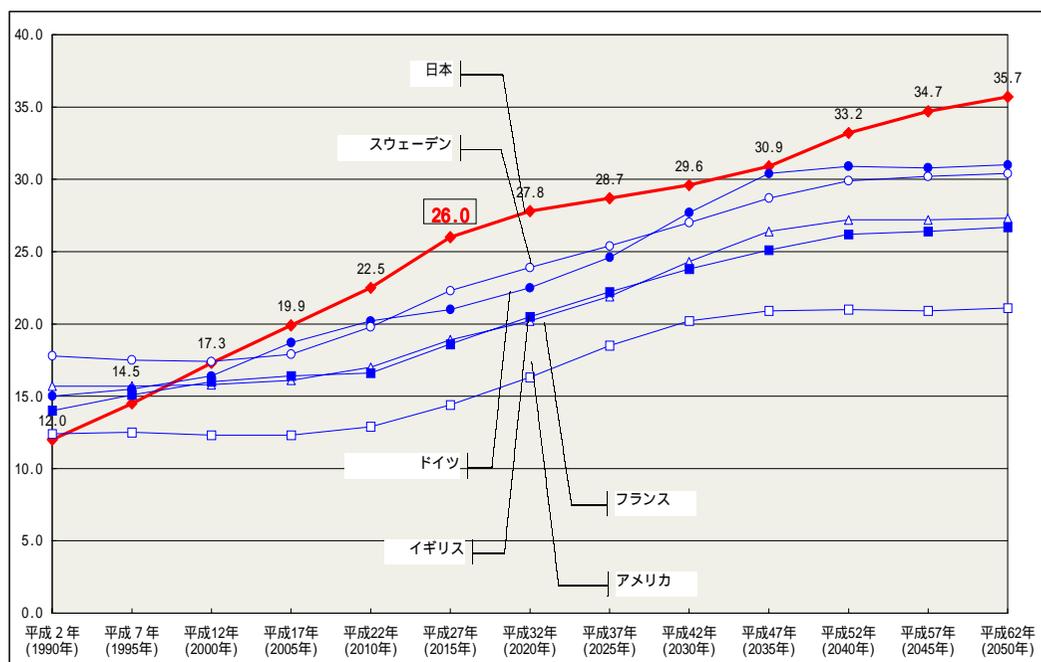
我が国の人口は2006年をピークに減少に転じると予測されている



資料: 2000年まで総務省「国勢調査」、2005年以降: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」

# ■ 高齢化と障害者の増加

## 高齢化率の推移と予測



出所) 総務庁統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」  
(平成14年1月推計 中位推計)

## 年齢階級別にみた身体障害者の人口比(対千人)

年齢階級	身体障害者数
総数	31.1
70歳以上	96.2
65～69歳	72.1
60～64歳	46.5
50～59歳	24.2
40～49歳	13.0
30～39歳	5.4
20～29歳	3.9
18、19歳	3.7

出所) 平成13年身体障害者実態調査及び身体障害児実態調査(厚生省)

# 障害者の数と社会参加の状況

障害者の社会参加は進んでいない

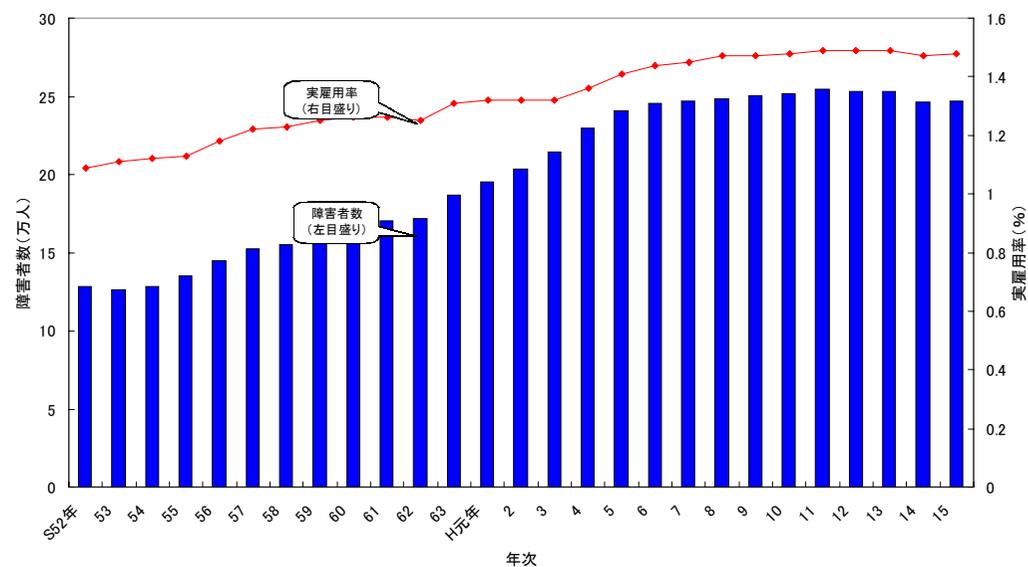
## 障害者数

(単位:万人)

	総数	在宅者	施設入所者
身体障害児・者	351.6	332.7	18.9
知的障害児・者	45.9	32.9	13.0
精神障害者	204.0	170.0	34.0

資料:平成15年度 障害者白書

## 一般の民間企業における障害者数 及び実雇用率の推移



データ:厚生労働省

## ■これまでの取り組み(国土交通省)

### 交通バリアフリー法

- ・2000年5月17日公布
- ・高齢者・身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の利便性・安全性の向上を促進
- ・特定旅客施設を有する市区町村が基本構想を策定
- ・重点整備地区におけるバリアフリー化の重点的・一体的な業実施(平成22年度まで)

### ハートビル法

- ・1994年9月施行、2003年4月改正ハートビル法施行
- ・高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築を促進

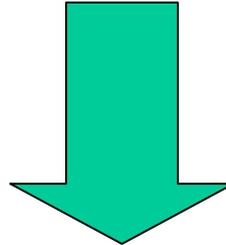
### 歩行者ITSの開発

- ・ITS(Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム)
- ・情報提供による安全・安心・快適な移動の支援
- ・注意喚起、場所属性情報の提供と経路案内
- ・デジタル道路地図・GPS・ICタグ・携帯端末等を活用

事

## ■ 今後必要な取り組み

全ての市民・外国人ユーザーにとって  
Accessibleな社会基盤の構築



すべての人が持てる力を発揮し、支え合う  
「ユニバーサル社会」の構築

## 2. プロジェクトの目的

すべての人が持てる力を発揮し、支え合う「ユニバーサル社会」の構築



.....そのために

**社会基盤と利用者を繋ぐ汎用的な情報基盤の整備について検討する**

利用者がニーズに応じたきめ細かい、分かり易い情報を入手出来る

社会基盤の供給者・利用者・市民が誰でも情報発信できる

対象とする利用者：歩行者、車いす、公共交通利用者

高齢者 2204万人(2000年)

(全人口の17.3%)

障害者

- ・視覚障害児・者 30.6万人
- ・聴覚・言語障害児・者 36.1万人
- ・肢体不自由児・者 179.7万人
- ・知的障害児・者 45.9万人

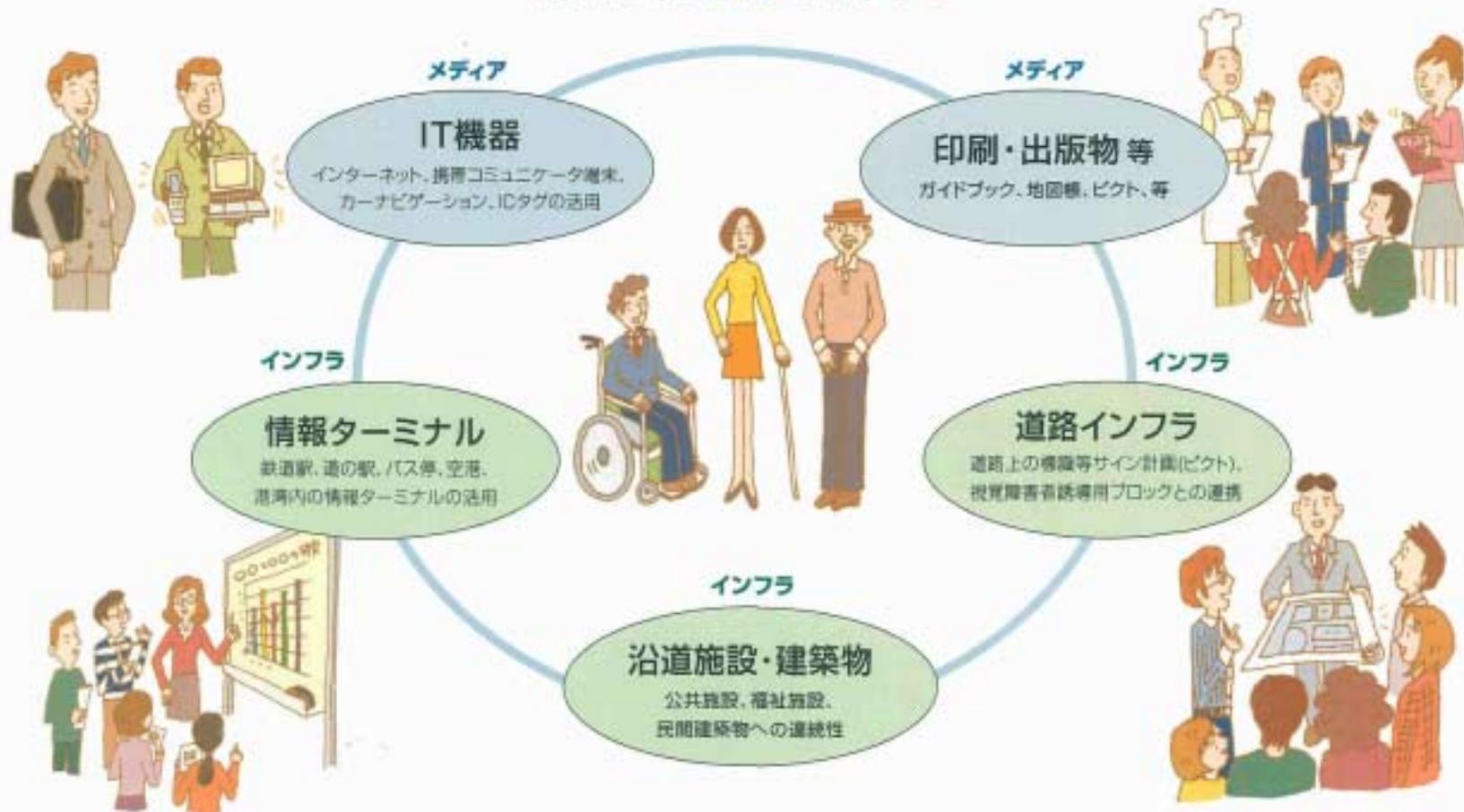
日本を訪れる外国人 年間477万人

・・・目標：平成19年までに800万人

資料：視覚、聴覚・言語、肢体不自由・・・H13厚生労働省  
知的・・・H12厚生労働省、訪日外国人・・・H13

情報の発信・更新が産学官民の連携により  
スムーズに行える枠組の構築

活用するメディアとインフラ



# 利用者のニーズと活用できる情報媒体（出発前）

	視覚障害者	聴覚障害者	車いす使用者	外国人
Key Word	空間認識 状況認識	状況認識 情報交換	Access情報	状況認識 情報交換
出発前	通行可能なルート、 出発時間 利用可能な交通手 段と所要時間、料金 公共交通機関の運 行情報 利用可能な施設(移 動中、目的地)	利用可能な交通 手段と所要時間、料 金 公共交通機関の 運行情報、所要時間、 料金 目的地の施設内 容	通行可能なルート、出 発時間 利用可能な公共交通 機関の運行情報 利用可能な施設(移動 中、目的地)	利用可能な 交通手段と所 要時間、料金 公共交通機 関の運行情報、 所要時間、料 金

※利用者の情報ニーズ：①安全 ②安心 ③快適

# 利用者のニーズと活用できる情報媒体(移動中・経路上)

	視覚障害者	聴覚障害者	車いす使用者	外国人
Key Word	空間認識 状況認識	状況認識 情報交換	Access情報	状況認識 情報交換
移動中 (経路上)	救援情報の発信 緊急時、災害時等の 状況説明、代替移動手 段 現在位置と方向(誘 導) 歩車道の境界、経路 上の障害物 横断歩道の位置、向 き、信号現示 立体横断施設、エレ ベータ等の乗降口 目的地の入り口(位 置、形状等) 施設内の経路情報 沿道の状況(道路施 設、店舗等)	救援情報の発信 緊急時、災害時等 の状況説明、代替移 動手段 現在位置(歩行中、 交通機関内) 目的地の入り口(位 置) 利用可能な施設 (移動中、目的地) 沿道の状況(道路 施設、店舗等)	救援情報の発信 緊急時、災害時等 の状況説明、代替移 動手段 施設内の経路情報 現在位置と(安心して) 通行可能なルート 利用可能な施設(車い す対応トイレ等)の位置、 属性 沿道の利用可能施設 (道路施設、店舗等)	緊急時、災害 時等の状況説明 代替移動手段 現在位置(歩 行中、交通機関 内) 目的地の入り 口(位置)

※利用者の情報ニーズ : ①安全 ②安心 ③快適

# 利用者のニーズと活用できる情報媒体(移動中・ノード)

	視覚障害者	聴覚障害者	車いす使用者	外国人
Key Word	空間認識 状況認識	状況認識 情報交換	Access情報	状況認識 情報交換
移動中 (主要 ノード)	救援情報の発信 緊急時、災害時等の状況説明、代替移動手段、現在位置と方向(誘導) プラットホーム等の端部 電車の接近 交通ターミナルの案内(ファミリアライゼーション) プラットホーム、バス停の乗降口と運行情報 利用可能な店舗、休憩施設等	救援情報の発信 緊急時、災害時等の状況説明、代替移動手段 電車 バスの接近 公共交通機関の運行情報: タクシードライバーへの意思伝達 利用可能な店舗、休憩施設等	救援情報の発信 緊急時、災害時等の状況説明、代替移動手段 交通ターミナルの案内(通行可能なルート、エレベータ、車いす用トイレの位置等) バス停等の運行情報(ノンステップバス、リフト付きバス等) 利用可能な店舗、休憩施設等	緊急時、災害時等の状況説明、代替移動手段 公共交通機関の運行情報: タクシードライバーへの意思伝達

※利用者の情報ニーズ : ①安全 ②安心 ③快適

# 3. 取り組みの内容

## 社会実験の実施(積み重ね)

### 国際都市神戸をモデル地区として社会実験を実施

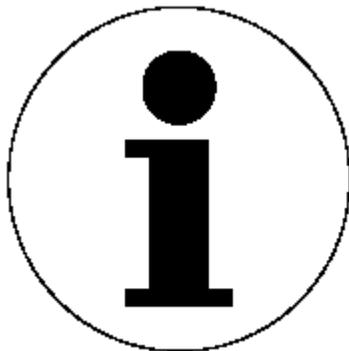
- ・阪神淡路大震災の経験
- ・2005年度 震災後10年の節目、神戸空港の開港、「チャレン  
パン・フォーラム (CJF) 国際会議in神戸」の開催 ジド・ジャ
- ・2004年名古屋のITS世界会議における歩行者ITS実験を反映

# すべての人に分かりやすいピクトグラム(案内用図記号)の活用

## 既存のピクトグラム

- ・不特定多数が出入りする交通施設・観光施設等に使用
- ・2001年3月、「一般案内用図記号検討委員会」(事務局: 交通エコロジー・モビリティ財団)において制定(125項目のうち104項目についてJIS化)

〈公共・一般施設の例〉 JISZ8210(平成14年3月20日)



情報コーナー  
Information



お手洗  
Toilets



車椅子スロープ  
Accessible slope

## 分かり易い情報提供のための新たなピクトグラム(案内用図記号)

### < 課題 >

現在制定されているピクトグラムは **施設の場所**に掲示することを想定



目的地に関する**事前情報**としての活用が可能

### < 検討の方向性 >



- ・道路上および施設入り口に設置するサインとして
- ・携帯情報端末への情報ツール(表示記号)として
- ・ガイドブック、地図等で使う施設の性能表示として

**以上のような発展を前提とした、新しいピクトグラムの提案**

### < ピクトグラムの公募 >

- ・広く公募し、モデル地区神戸に試験設置
- ・神戸の社会実験において携帯端末等に表示